

令和5年度事業計画

令和5年度は、仙台フィル創立50周年を迎える節目の年度となります。新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に少なくなり、ガイドラインの廃止が見込まれることにより、中止や開催見合わせ等のコンサートの再開に向けて取り組む1年となると思われます。しかしながら欧州での紛争による影響や物価の高騰など懸念材料が払拭されない中、たやすい道ではありません。東日本大震災をはじめ多くの苦難を乗り越える際に発揮された音楽の力を信じ、音楽を通じた人々の絆を大切にして、地域の皆様、さらには全国の仙台フィルサポーターの皆様に、50年の感謝を伝え更なる飛躍を目指す1年としてまいりたいと思います。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

令和5年度は常任指揮者に高関健を迎え、また指揮者には若手有望株である太田弦を据え、新体制のもと新たな1歩を踏み出した仙台フィルを発信していきます。

また、楽団員については、令和4年度に実施したオーディションにより、ファゴット首席奏者1名を採用するほか、ヴィオラ首席、チェロ、コントラバス、ホルン首席、トロンボーン及びチューバ奏者についてもオーディションを進めてまいります。

2. 交響管弦楽等の演奏を行うこと

(1) 定期演奏会

50周年の節目を迎える令和5年度は、一年を通し仙台フィルと聴衆を育て共に歩んだ指揮者・ソリストをラインアップしつつ、宮城フィル音楽総監督であった故芥川也寸志、同常任指揮者であり現副理事長の片岡良和、仙台フィル音楽監督であった外山雄三という著名な作曲家の作品を取り上げます。

常任指揮者に就任する高関健は、第364回定期演奏会（令和5年6月）に登壇し、芥川の代表作である「弦楽のための三楽章」を演奏会冒頭に据え、昨年年第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門で1位に輝いたルウオ・ジャチンを招聘し、彼が最も得意とするレパートリーの一つであるサン＝サーンスのピアノ協奏曲を披露します。また高関が最も研究している作曲家マーラーの交響曲第4番では、高関が信頼してやまないソプラノの中江早希をソリストに迎え、マーラー研究家ならではの解釈を聴衆にお届けします。

第370回定期演奏会（令和6年2月）では、こちらも昨年年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて17歳で優勝したヴァイオリニスト中野りなを迎え、シベ

リウスのヴァイオリン協奏曲で共演いたします。この定期演奏会でも高関は芥川作品の代表作である「交響管弦楽のための音楽」を取り上げるほか、ドヴォルザークの名作、交響曲第6番に取り組みます。

指揮者に就任する太田弦は、仙台市出身のヴァイオリニスト、大江馨をソリストに抜擢し、定期演奏会初登場の大江が満を持して提示したイギリスの作曲家ヴォーン＝ウィリアムズ珠玉のヴァイオリン作品であるロマンス「揚げひばり」を演奏します。また太田は師匠である尾高忠明や高関健が得意とする作曲家、エルガーやドヴォルザークに焦点を当て、師匠から引き継いだ指揮法を昇華し、太田ならではの解釈を聴衆に問います。

また、桂冠指揮者・パスカル・ヴェロは、第371回定期演奏会（令和6年3月）に登壇。50周年の定期演奏会シリーズの最後を飾ります。昨年度取り組んだ楽団員個々の演奏技術を披露する室内オーケストラ作品第2弾として、ミヨーのバレエ音楽「世界の創造」を1曲目に配置し、その後はヴェロ得意のフランス音楽の交響詩を並べ、最後にアメリカの大作曲家コープランドの大作であり仙台フィル初演奏となる交響曲第3番を取り上げます。この交響曲第3番は4楽章冒頭に有名な市民のためのファンファーレのモチーフが使われております。このファンファーレを50周年締めくくりの定期演奏会で高らかに演奏することにより、多くの市民や仙台フィルファン、関係者に感謝を伝える機会としたいと思います。

客演指揮者としては、元首席客演指揮者（2006年～2017年）で現在日本を代表する巨匠のひとりである小泉和裕が第363回定期演奏会（5月）に久々に登壇します。5月のシーズンオープニングに合わせ、厳かなファンファーレから始まり劇的な弦楽器の響きを連ねるシューマンの交響曲第1番を50周年定期演奏会の第1曲目に据え、後半には2009年、当時の常任指揮者パスカル・ヴェロと収録、CD化して話題となったフランクの交響曲を披露します。カラヤンの薫陶を受けた小泉らしいドイツ的プログラムで幕開けです。

第365回定期演奏会（7月）には宮城フィルが仙台フィルに改称する激動と成長の時期に常任指揮者（1989年～1999年）を務めていた円光寺雅彦が定期演奏会に帰ってきます。ソリストには円光寺の盟友でもある清水和音を抜擢し、生誕150年、没後80年の記念の年にあたるラフマニノフの大作であるピアノ協奏曲第3番を演奏します。指揮者・ソリスト・オーケストラ三者が大きく成長した姿を見せつけることになるでしょう。もう1曲、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」は、1989年当時仙台フィル初のサントリーホール公演のプログラムで円光寺指揮のもとCD制作のためのライブ録音も行いました。その公演の約1か月前に、当時の音楽総監督の芥川也寸志が逝去し楽団員は涙を流しながら演奏したという思い出があり、今回も熱演になることは間違いないでしょう。

第367回定期演奏会（10月）には元正指揮者（2009年～2012年）であり、東日本大震災時にともに被災した山下一史を迎えます。山下を指揮者に抜擢した

当時の元音楽監督（1989年～2005年）の外山雄三が作曲した世界に誇る名曲、「管弦楽のラプソディ」を1曲目に据えます。吹奏楽コンクールでも取り上げられるハチャトゥリヤンの組曲「バレンシアの寡婦」もプログラミングし、若い吹奏楽世代の取り込みも見据えています。メインはシベリウスの交響曲第5番です。

第368回定期演奏会（11月）には仙台フィル初登場の指揮者、ジョン・アクセルロッドが登壇します。この指揮者が一昨年京都市交響楽団の定期演奏会で、スペインの作曲家でありギタリストのホセ・マリア・ガジャルド作曲の新作委嘱作品「セビリアの侍」を演奏したことが話題となっております。この作品は慶長使節団としてスペインに渡った、支倉常長がモチーフになっており、開府400年などに合わせて三善晃のオペラ「遠い帆」を演奏してきた仙台フィルが50周年で取り上げるのに相応しい作品です。仙台藩士会や伊達家、支倉家の皆さまにも広くお知らせしながら盛り上げてまいります。後半には船繋がりでご選曲したリムスキー＝コルサコフの交響詩「シェエラザード」を据えております。（シェエラザードについては演奏会の開催状況のニューイヤークンサートをご参照ください。）

第369回定期演奏会には指揮者（1990年～1999年）そして常任指揮者（2000年～2005年）を歴任した梅田俊明が登壇します。

梅田は第1回、第2回仙台国際音楽コンクールを成功へと導いた大きな功労者であるとともに、仙台フィルが協奏曲というジャンルを極めるにあたり大変貢献した指揮者でもあります。その梅田が、片岡良和の代表作である「抜頭によるコンポジション」を1曲目に据え、2曲目には第1回仙台国際音楽コンクールの優勝者であるスヴェトウリン・ルセフと共にサン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲を取り上げます。メインにはバルトークの難曲であり、オーケストラと指揮者の地力が試される「管弦楽のための協奏曲」で仙台フィルの現在の実力を提示します。

梅田が仙台フィル定期演奏会デビューを飾った時もこのサン＝サーンスとバルトークを取り上げており、奇しくもその再現コンサートともいえるプログラムとなったことは興味深いことです。（当時の1曲目は三善晃の「連禱富士」。サン＝サーンスのヴァイオリンは前橋汀子でした。）

（2）特別演奏会

平成14年（2002年）より継続開催している0歳児からのコンサート「オーケストラと遊んじゃおう」は、令和4年度は50%の客席の運用で3年振りに再開しましたが、5年度は4月に100%の客席運用に戻し多くの家族連れに楽しんでいただくこととなります。例年人気の「楽器体験コーナー」は残念ながら中止としますが、指揮者を体験するコーナーや、珍しい楽器を見学できる展示コーナーを作り、コンサートとともに楽しみいただきます。

5月には仙台フィル50周年記念演奏会第1弾として仙台フィル初登場であり、世界で活躍するヴァイオリニスト五嶋みどりを迎えチャイコフスキーの魅力に迫るコンサートを開催します。大変美しいメロディで有名な弦楽四重奏曲第1番の第2楽章にあたるアンダンテ・カンタービレを弦楽合奏でお楽しみいただきます。その後天才少女としてニューヨークフィルデビューを飾ってから40周年の記念にあたる五嶋みどりにには彼女の一歩のレパートリーであるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を披露していただきます。また飯守泰次郎と取り組んだチャイコフスキー後期交響曲で取り残してしまった交響曲第4番を新常任指揮者の高関健が拾い上げます。なおこの演奏会のチケットは発売日より二日間で完売となりました。

7月には、東北の2つのプロオーケストラが手を携えて東北6県を元気にしようと企画された「東北UNITED 仙台フィルハーモニー管弦楽団×山形交響楽団 合同演奏会」が今年も継続開催されます。5回目となる今回は仙台フィル桂冠指揮者であるパスカル・ヴェロを指揮者に迎え、フランス音楽をたっぷりとお聴きいただきます。ヴェロ退任時にも演奏したラヴェルの「高雅で感傷的なワルツ」、「ラ・ヴァルス」、「ボレロ」といった忘れられないラインナップにドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」やラヴェルの「ダフニスとクロエ第2組曲」など、フランスのエスプリをたっぷりとお聞きいただきます。

8月には、昨年地震の影響により中止となった宮川彬良とのサマーフェスティバルを開催いたします。平成15年(2003年)から10年間続いたNHK教育テレビ(当時)の人気番組「ゆうがたクインテット」で有名な宮川を指揮者兼ピアニストに迎えて、なじみのある曲から宮川のオリジナル曲まで幅広い作品を並べ、多くのファミリー層をターゲットに、5歳から入場できる夏休みの目玉企画とします。今後数年間開催していく予定としています。

「マイタウンコンサート in 岩沼」は、今年度まで指揮者として5年間活躍した角田鋼亮を迎え、2年前からこのマイタウンコンサートで取り上げてきたビゼーの「カルメン」組曲をメインの作品にお届けします。またラフマニノフのアンバーサリーイヤーということもあり、1曲目には抒情的なメロディが有名なヴォカリーズ、2曲目には人気ピアニストである阪田知樹をソリストに迎えパガニーニの主題による狂詩曲も取り上げます。定期演奏会でドヴォルザークの二つの交響曲を取り上げていることもあり、後半の1曲目には序曲「謝肉祭」も演奏します。

9月には仙台フィル50周年記念演奏会第2弾として「スペシャルサンクスコンサート」と題し、創立理事長の藤崎三郎助氏を顕彰しつつ、宮城フィル黎明期から支え仙台フィルをサポートし続けていただいている多くの方々への感謝の気持ちをお届けするコンサートを開催します。ソリストにはイギリスで活躍し、仙台フィルに改称した時期に度々共演したピアニストの小川典子を起用します。創立理事長が愛好した楽曲、ヘンデルの「水上の音楽」を皮切りに、グリーグの

ピアノ協奏曲、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」など珠玉の名曲を揃え、創立理事長と懇意にされていた元常任指揮者の円光寺雅彦がタクトを振ります。

仙台フィル50周年記念演奏会第3弾は平成14年(2002年)より合同演奏会で絆を紡いできた盟友である、「オーケストラ・アンサンブル・金沢(以下OEK)」との合同演奏会となります。合同演奏会としては5回目の共演となる今回は、指揮者に世界で活躍する山田和樹の招聘が叶いました。OEKには2011年東日本大震災直後の4月18日に、オーケストラ活動ができなくなった私たちを金沢へ招待していただきました。久しぶりにオーケストラとして演奏できたことは何よりの喜びで、また聴衆の皆様全員の終演後のスタンディング・オベーションと「がんばれ仙台フィル!」と横断幕を掲げてくださった光景に楽団員は鼓舞され、その後の長い復興コンサートの道のりへの糧となりました。その盟友への感謝の気持ちと恩返しの意味も含めて50周年特別演奏会に招待し、合同演奏ならではの小編成曲、リヒャルト・シュトラウスのアルプス交響曲を絆の証として仙台の地に鳴り響かせます。

年末恒例の「第九」特別演奏会は、常任指揮者の高関健が、昨年多くの聴衆を魅了したソリスト中江早希(Sop)、相田麻純(MzSop)、宮里直樹(Ten)、大沼徹(Bar)を再び起用し歓喜の歌をお届けします。新型コロナウイルスのガイドラインが廃止の方向へ向かう中、今年こそは大人数の合唱団を編成し多くの市民に参加していただきながら年末の第九を迎えたいところです。

名曲コレクション・ニューイヤーコンサート2024は、指揮者の太田弦を据え、演奏会前半はウィーンフィルのニューイヤーコンサートでもおなじみのヨハン・シュトラウスの作品を中心に構成しました。華やかなウィンナワルツで新年を祝いつつ、後半にはしっかりとした交響曲をお聴きいただきたく、シベリウスの傑作交響曲である第2番をお届けします。

(3) 依頼公演

令和5年5月には五橋に新築された東北学院大学内の押川記念ホールにて、泉キャンパスから移設されたパイプオルガンにスポットを当てたコンサートを開催します。鈴木秀美指揮でサン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」を演奏する予定です。

6月には、アイリスオーヤマクラシックスペシャル2023がサントリーホールにて予定されています。今回は桂冠指揮者のパスカル・ヴェロを迎え、ヴェロの最も得意とするベルリオーズの幻想交響曲を披露します。

7月には、酒田共同火力発電主催のコンサートが4年ぶりに開催されることになりました。指揮に太田弦、ソリストには今話題のピアニスト角野隼斗を迎え、ガーシュウインのピアノ協奏曲などオールアメリカンプログラムを組み、酒田共同火力発電創立50周年に華を添えます。

8月と10月にはコロナ禍で演奏会等のイベントが少なくなっていることに對

し、文化庁の支援策であるアートキャラバン事業を利用して、東北各地での公演を予定しております。

10 月にはアートキャラバンみやぎとして多賀城が令和 6 年（2024 年）に開府 1300 年を迎えるにあたりそのプレ公演として新作オペラを演奏する予定です。

なお、10 月恒例の仙台クラシックフェスティバルは、イズミティ 21 の大規模改修が続くため、今回も縮小開催となります。

11 月には長年続いている岩沼第九演奏会が引き続き開催される予定です。

12 月にはコロナ禍で延期や中止が続いていた、七十七スターライトシンフォニーと大船渡第九演奏会が再開する予定です。またロームミュージックファンデーション 30 周年記念コンサートやソニー音楽財団主催 Concert for Kids も受注することができました。

令和 6 年 1 月には、年始恒例の藤崎ニューイヤーコンサートで仙台の初春を華やかに飾る予定です。

このほかに七十七ふれあいコンサートについては、年度内に 2 公演開催していただける方向で開催時期を調整しております。

（４）室内楽

「音楽の力による復興センター・東北」との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を引き続き行っていきます。

（５）その他

被災地のオーケストラとして、「音楽の力による復興センター・東北」と連携し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。

また、令和 3 年度より取り組みを始めたボランティア活動「ほうもんコンサート」もコロナ禍では開催できないことが続きましたが、令和 5 年度は積極的に取り組んでまいります。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

（１）青少年のためのオーケストラ鑑賞会

令和 5 年度も、4 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で多くの児童・生徒が一堂に会する「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は開催見送りとなりますことから、仙台市内の小学校を対象に、小編成の室内楽グループによる学校訪問ミニコンサートを開催いたします。なお、オーケストラの魅力を伝えるため、演奏会の動画を制作し、対象となる学年の児童・生徒に鑑賞していただく予定です。

（２）文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

令和5年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」が採択となり、東北・北海道の小学校や中学校の訪問を予定しています。各地の子供たちにオーケストラの素晴らしさを届けます。

（3）その他依頼公演

例年開催されている仙台育英学園秀光中学校管弦楽部との共演を通し、事前練習等で演奏指導を行います。同様にエンジョイ！クラシックでも高校生の管弦楽部と共演を予定しており、演奏指導にあたる予定です。

4. その他目的達成のために必要な事業

（1）演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立てまいります。

（2）仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で大編成の合唱団を結成することが叶わず、市民合唱団40名をオーディションにより選抜しました。令和5年度は新型コロナウイルス感染症の動向を見守りつつ、従来の大編成の市民合唱団を編成できるかどうか判断してまいります。

（3）仙台ジュニアオーケストラ

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策が緩和される見込みとなりますので、欠員の補充に力を入れつつ、子供たちが音楽を演奏することによって心身ともに健康であることを目標に、仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習、及び弦楽器、管楽器、打楽器に分かれての分奏の指導にあたります。令和3年度からは高関健がスーパーヴァイザーに就任したことにより、レベルアップが図られ、大きな成果が上がっています。今後はコロナ禍前のように従来通りの活動を展開できるよう取り組む予定です。

（4）その他

多くのリスナーからご好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和5年度も番組内で聴取者に仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えてTBC東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定しております。これらの放送媒体や仙台フィルのホームページ、ツイッター、フェイスブックなどSNSによる情報拡散を積極的に行うとともに、令和4年度からはじまったLINE公式アカウントでの広報活動は順調にお友達が増えており現在2800人を突破し増え続けております。仙台

フィルの主催公演情報をリアルタイムで発信し、定期演奏会はコロナ禍前の水準にまで聴衆が戻りました。また仙台フィル YouTube チャンネルを活用し、すべての定期演奏会の指揮者、ソリスト、または仙台フィル楽団員による定期演奏会事前プロモーション動画を配信しており好評を得ておりますが、今後は演奏会の模様もアーカイブで発信していくなど更なる広報活動を展開して参ります。

(以上 敬称省略)